

世界株価の頭打ちが気掛かり

2013年2月19日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

16:11 現在

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	11372.34 円	▲35.53 円
T O P I X	963.61 pt	0.92 pt
N Y ダウ		
D A X (独)	7,628.73 ドル	35.22 ドル
F T 100 (英)	6,318.19 pt	▲10.07 pt
C A C (仏)	3,667.04 pt	6.67 pt
上海総合※	2,380.28 pt	▲41.276 pt

<外国為替>※

ドル円	93.64 円	▲ 0.32 円
ユーロ円	125.08 円	▲ 0.38 円
ドルユーロ	1.3357 ドル	0.001 ドル

<長期金利>※

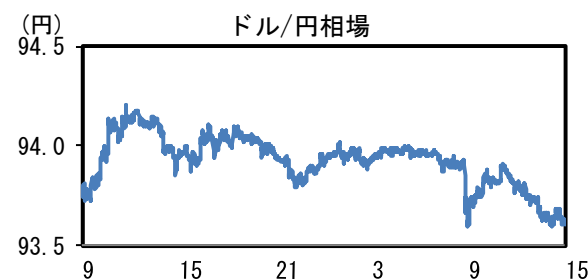
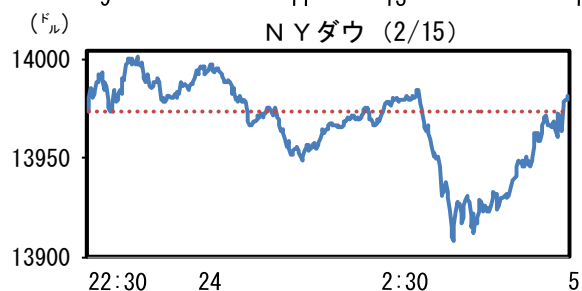
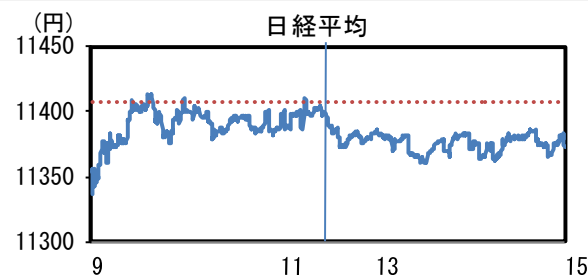
日本	0.735 %	▲ 0.010 %
アメリカ	2.002 %	0.000 %
イギリス	2.195 %	0.002 %
ドイツ	1.629 %	▲ 0.023 %
フランス	2.265 %	▲ 0.013 %
イタリア	4.404 %	0.022 %
スペイン	5.232 %	0.039 %
オーストラリア	3.582 %	0.060 %

<商品>

N Y 原油	95.86 ドル	▲ 1.45 ドル
N Y 金	1609.50 ドル	▲ 26.00 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



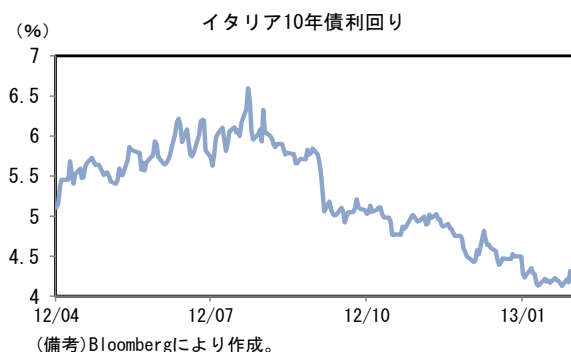
【海外株式市場】 ～米国休場～

18日の米国株式市場はプレジデントデーにより休場。欧州市場は全般的に小動き。ドラギE C B総裁が景気の下方リスクについて言及したこと等を背景に積極的な買いが手控えられた。

【外国為替相場・債券市場】 ～動意に乏しい、イタリア総選挙がじわりと重石～

18-19日の外国為替市場では、円、ドル、ユーロ共に動意に乏しい展開となった。G20終了後とあって特段の材料に乏しい中、米国の祝日も重なり目立った動きはみられず。欧州債市場では、イタリア・スペイン国債の利回りが上昇、一方でドイツ国債の利回りは低下（右図）。2月24-25日実施のイタリア総選挙で安定的な政権が誕生しないとの懸念が背景にある。

G20は無事に通過したものの、一段の円安には、欧州市場の更なる緊張緩和など、リスクマネーが低金利の円から離れていく地合が必要となろう。

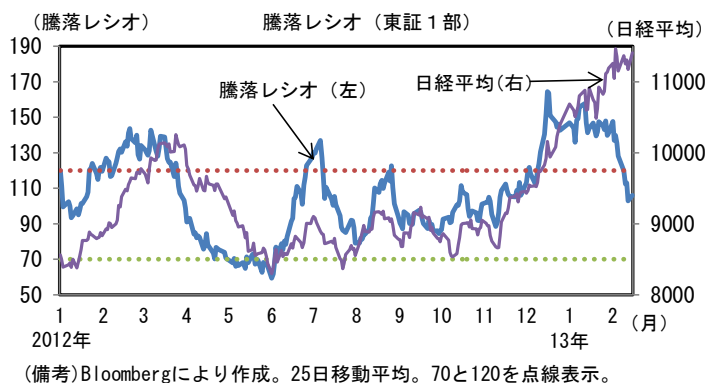


【国内株式市場】 ～過熱感はやや和らいだが買い材料は乏しい～

19日の東京株式市場、日経平均株価は反落。前日比▲35.53円の11372.34円で取引を終了。前日の米国株式市場が休場だった事に加えて、日銀総裁人事の行方を見極めたいとの思惑などから、動意に乏しい展開となった。売買代金が約1.7兆円と今年の最低水準まで減少するなど、様子見姿勢は強かった。

目先は、日銀総裁人事が目玉となる。新総裁がどれだけハト派であるかは、4月の会合結果を待つ必要があるが、現時点では武藤敏郎氏が候補に挙げられれば、円高・株安、逆に岩田一政氏に挙げられれば、円安・株高での反応が見込まれている。

騰落レシオが概ね100近傍まで低下しており、過熱感は払拭されつつある（右図）。日銀総裁候補にハト派的な人物が選出されれば、上値を試す展開も考えられる。



【注目点】 ～世界的リスク選好の陰りが気掛かり～

国内では日銀総裁人事の結果次第で円安が加速するとの見方が形成されつつあるが、為替を占う上で、世界株価（除く日本）が増勢を鈍化させるなど、世界的なリスク選好に陰りがみられる事は気掛かりである（下図）。今次局面の急速な円安は、日銀の追加緩和期待と世界的なリスク選好が相俟った結果であると考えられ、2大要因の片方が欠ける事によって円安トレンドが崩れる可能性があることに注意が必要であろう。心許無い事に、リーマンショック後、世界の投資家がリスクオフに傾斜する中で円安が進行した実績は無い。今次局面も昨年2月のバレンタイン緩和時も、世界は明らかにリスクオンに傾斜しており、低金利の円が自然発生的に売られ易い地合にあった。日銀の追加緩和期待だけで、円安を保てるという考えには危険が伴おう。



【NYダウ・日経平均株価予想レンジ（5営業日内）】

NYダウ 13650～14250^{ドル} 日経平均株価 10700～11600円